

県内景気の回復ペースは依然緩やか



神奈川県内景気

- サービス輸出に含まれるインバウンド消費は増加基調。ただ、財の輸出は依然として弱い動き。
- 2月の県内製造業の生産活動は上向いたものの、強いとは言い難い。
- 賃金上昇は物価上昇に追い付いておらず、家計の購買力は高まっていない。
- 財の消費は数量ベースで弱めの動きとなった模様。3月のサービス消費は歓送迎会などの復活で一時的に回復の動きが強まったものの、基調的な回復ペースは緩やかとみる。

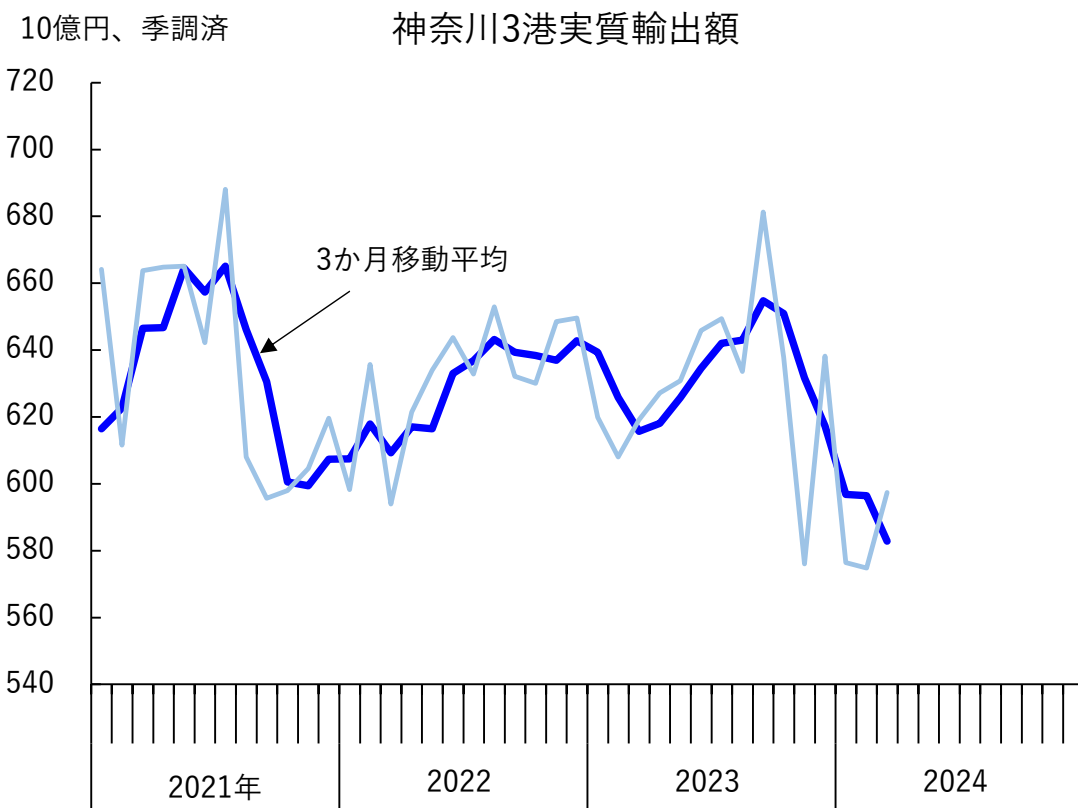
本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取り扱いいただきますようお願いいたします。





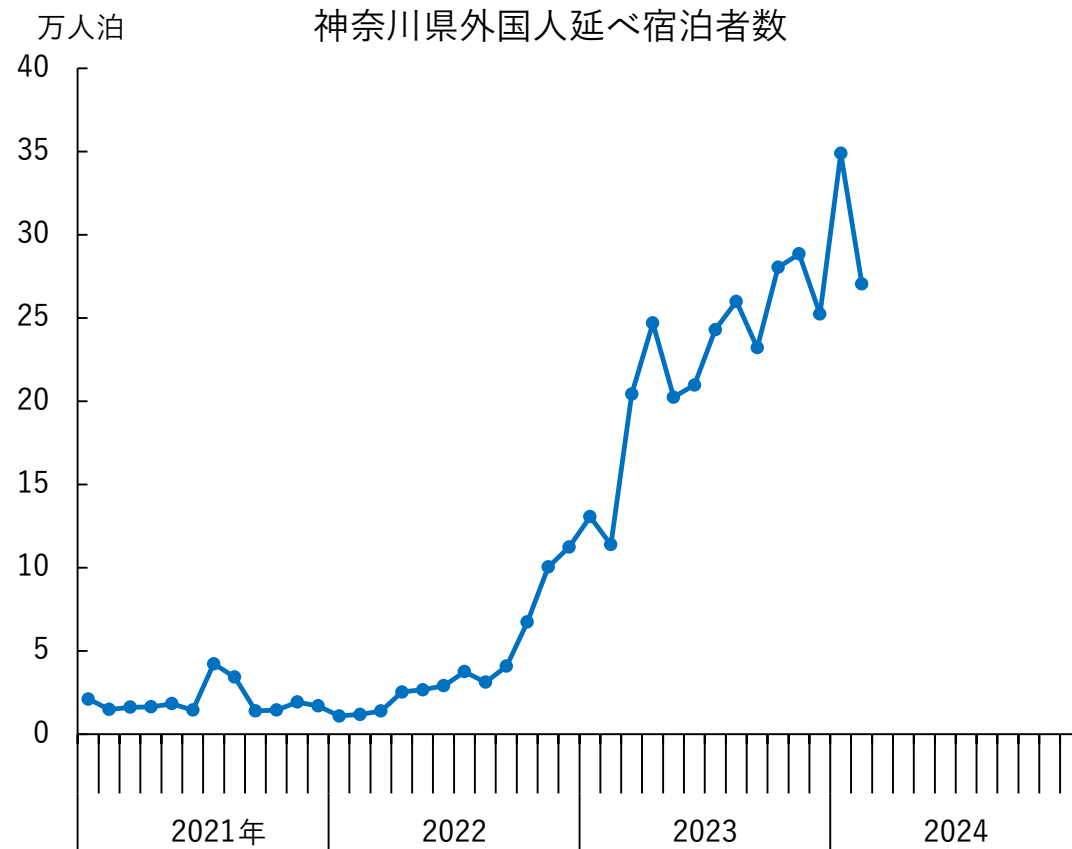
- 財の輸出は弱めの動きが続いている。神奈川3港（横浜港、川崎港、横須賀港）の実質（≒数量ベース）輸出は、3月に前月比増加に転じたものの、3か月移動平均は低下が続いた。自動車を含む輸送用機器が依然として減少基調となっている。
- 神奈川県外国人延べ宿泊者数は、2024年2月もコロナ禍前の2019年同月を大きく上回った（※）。サービスの輸出であるインバウンド消費は、引き続き増加基調にあると考えられる。

※ただし、神奈川県外国人延べ宿泊者数（2024年1、2月の第2次速報値）は誤差が大きいことに注意。



注：季節調整は当社で施した。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より浜銀総研作成

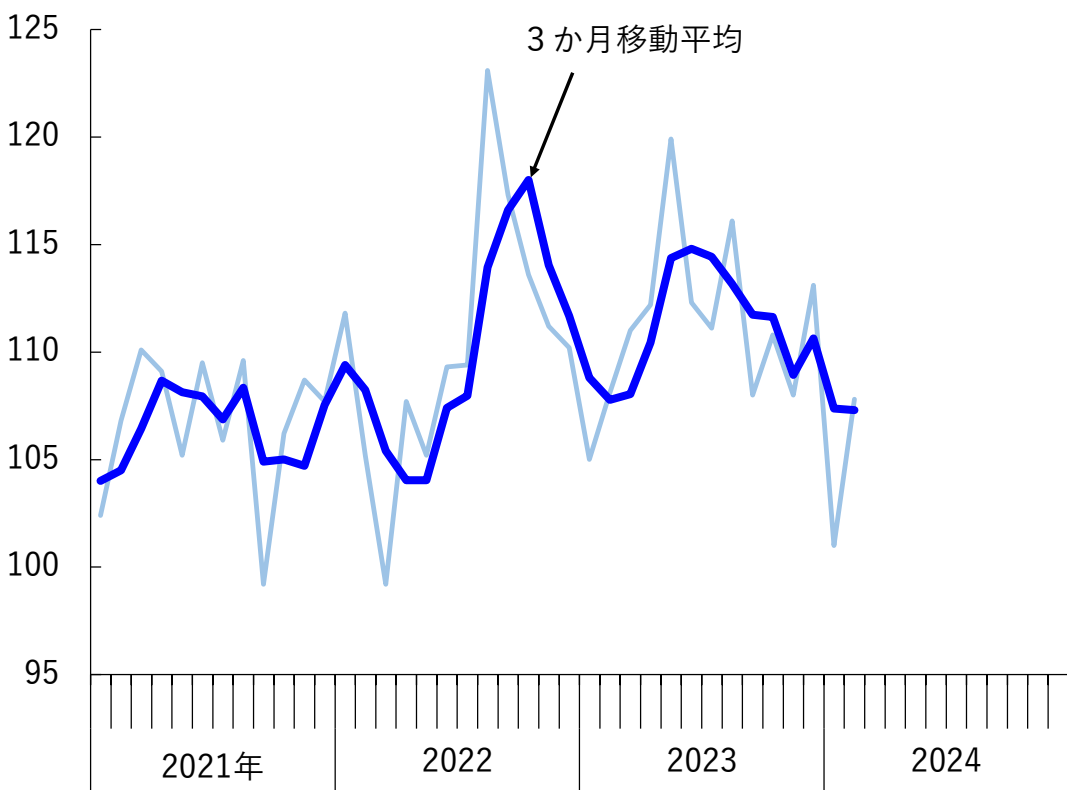


出所：観光庁「宿泊旅行統計」

- 2月の県内製造業の生産活動は上向いた。神奈川県「工業生産指数」によると、2月（速報）の製造工業生産指数は前月比+6.7%となった。ただ、3か月移動平均は同-0.1%とほぼ横ばいで推移した。
- 業種別にみると、半導体製造装置などを含む生産用機械（同+77.5%）が大幅上昇となり、指数全体を大きく押し上げている。同業種の対前月比の寄与度は+7.26%ポイントと、指数全体の伸びも上回った。同業種は毎月の変動が激しいため、基調判断には注意を要する。
- ウェートの大きい他の主要業種をみると、食料品・飲料（同+3.7%）が上昇したものの、化学工業（同-9.6%）や輸送機械工業（同-6.4%）は低下した。軟調な主要業種もあるため、生産活動は2月も強いとはいえない。

製造工業生産指数（神奈川県）

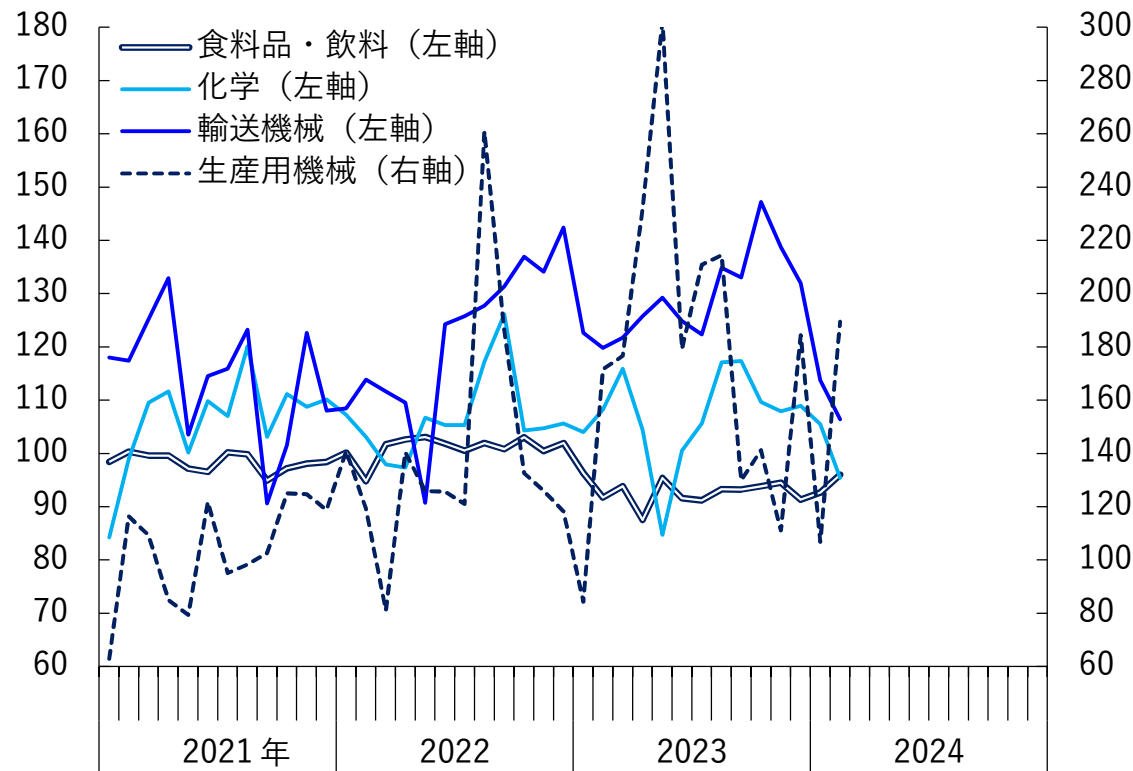
2020年=100、季調済



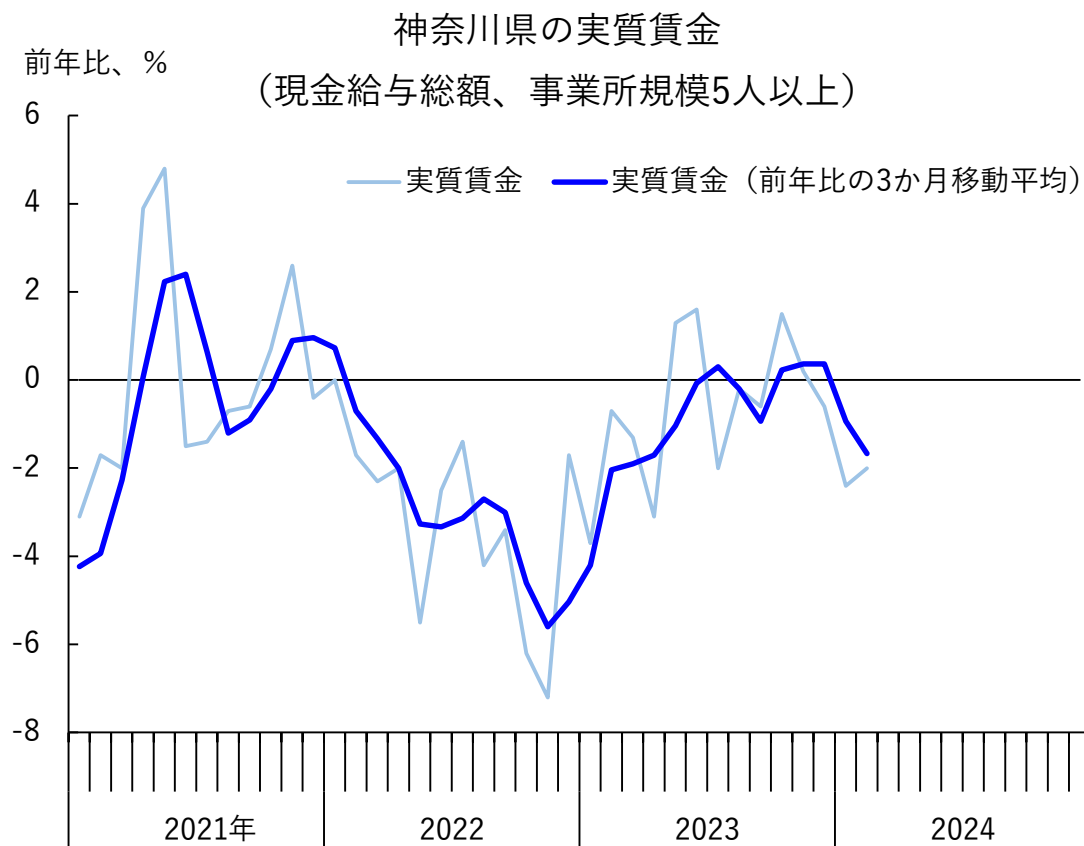
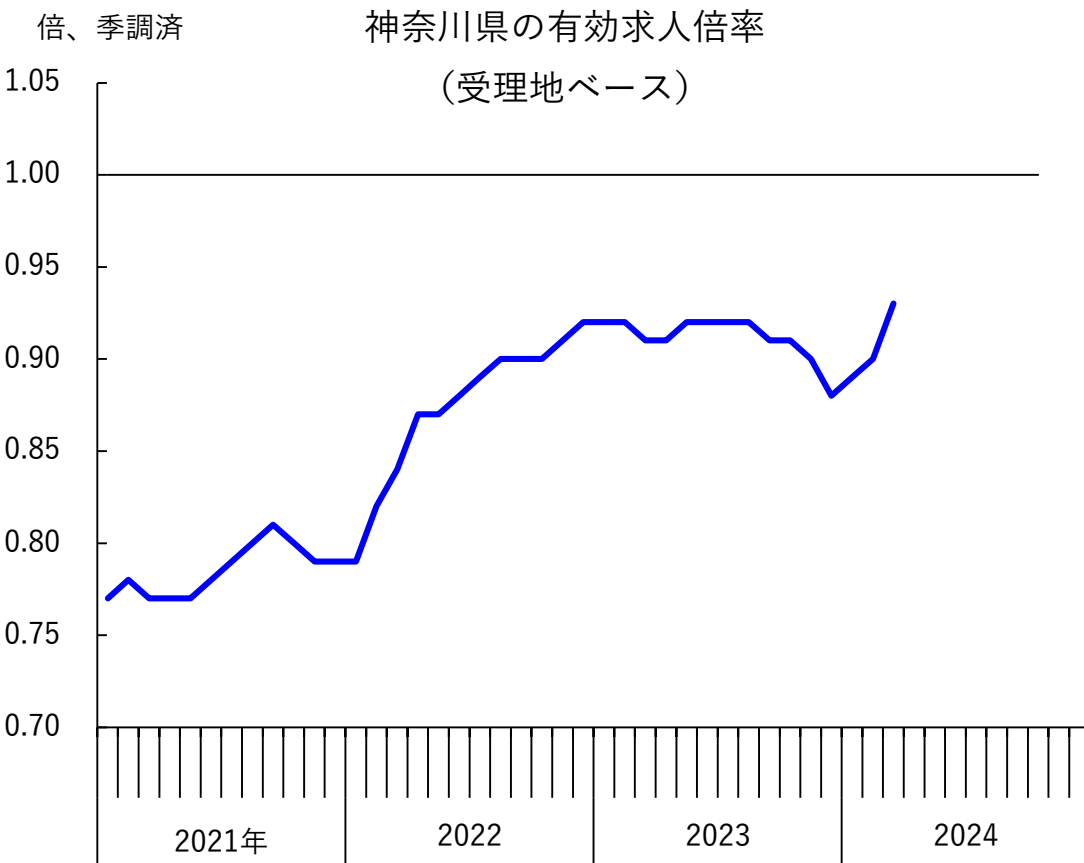
主要4業種の生産指数（神奈川県）

2020年=100、季調済

2020年=100、季調済

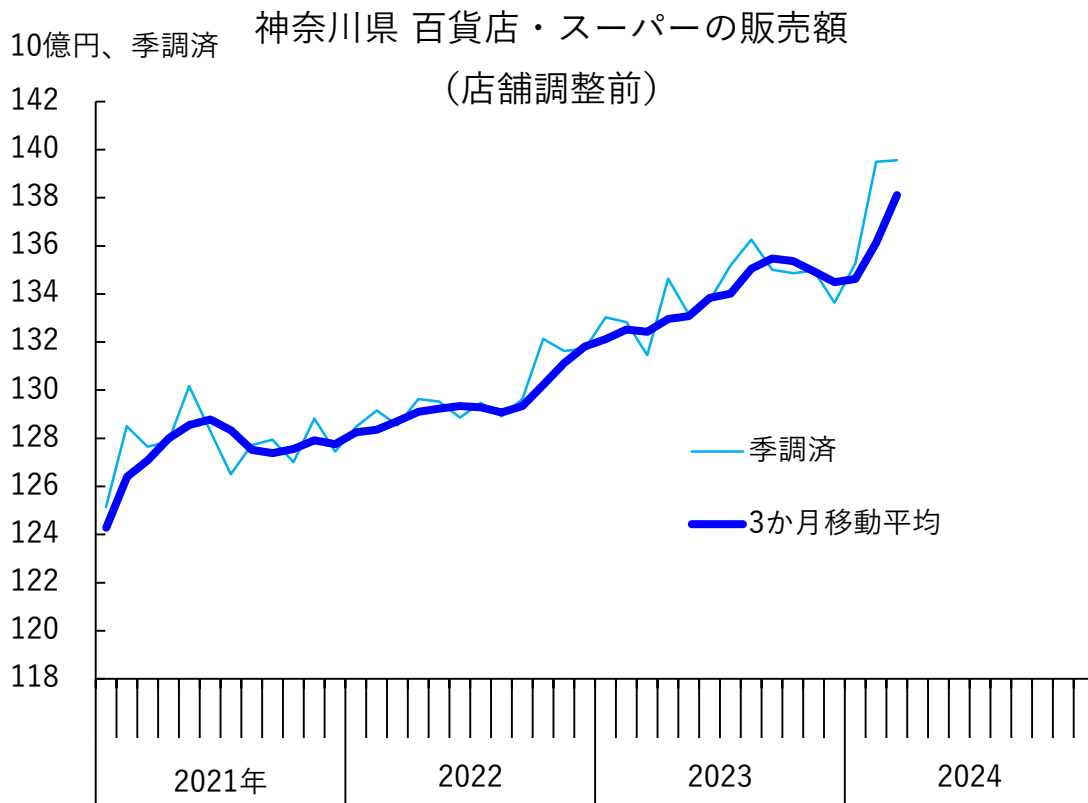


- 3月も雇用情勢は横ばい圏内の動き。3月の神奈川県の有効求人倍率（受理地ベース）は0.93倍（前月比0.03ポイント上昇）となった。ただ、新規求人数が前年を下回っている業種が多く、雇用情勢の回復が今後も強まっていくかについては不透明感が強い。
- 家計の購買力を示す神奈川県の実質賃金は、2月に前年比-2.0%となった。3か月連続の前年割れとなり、依然として物価上昇のペースに対して賃金上昇が十分でない状況がうかがえる。



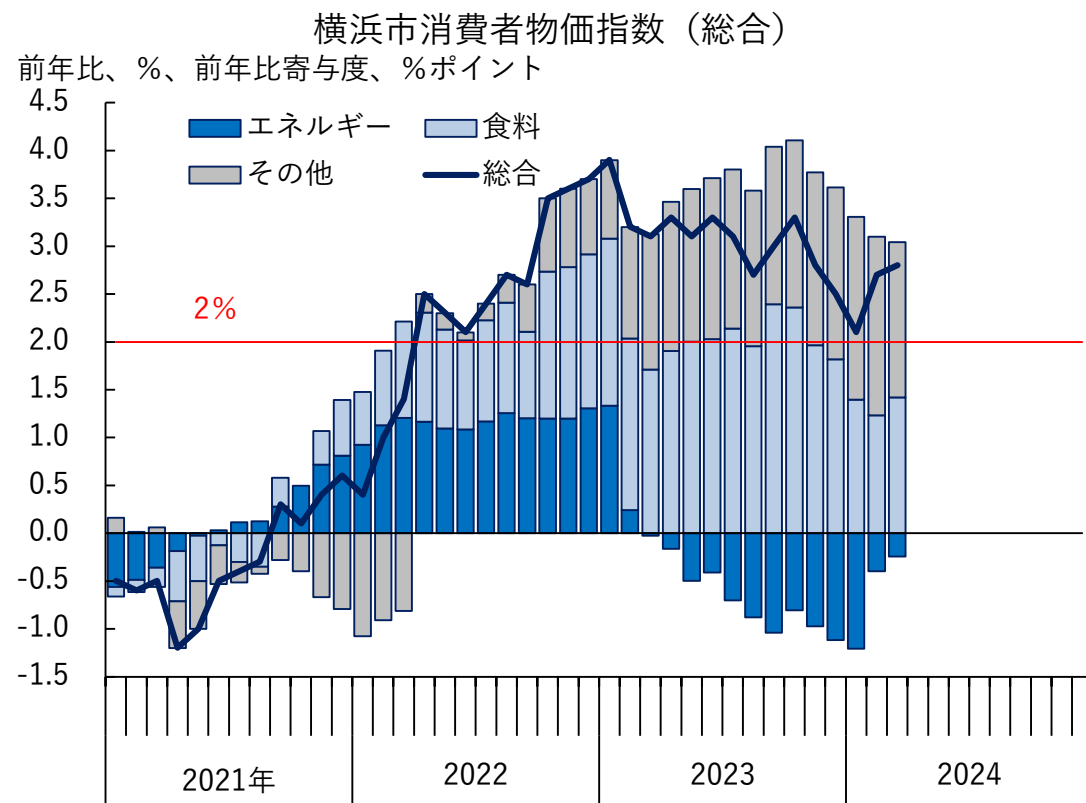


- 財の消費は3月に横ばい圏内で推移した。3月の百貨店・スーパーの販売額は前月比+0.1%と、ほぼ変わらなかった。消費者物価指数（横浜市、総合）は同+0.5%となっており、財消費は数量ベースでは弱含んでいるとみられる。
- サービス消費は一時的に回復の動きが強まった。3月の内閣府の「景気ウォッチャー調査（南関東）」によると、コロナ禍で自粛されていた歓送迎会などの宴会需要の回復を示すレストランやホテルのコメントがみられた。
- 横浜市の消費者物価指数（総合、前年比）をみると、3月は前年比+2.8%となった。食料の前年比プラス幅が前月に比べて拡大し、エネルギーの同マイナス幅が前月に比べて縮小した。



注：季節調整は当社で施した。

出所：経済産業省「商業動態統計」より浜銀総研作成



注：その他は総合からエネルギー、食料を差し引いた残差。

出所：総務省「消費者物価指数」より浜銀総研作成



浜銀総合研究所



2024年5月2日
調査部 副主任研究員
白須光樹